

令和7年度 新北市高校生交流派遣事業 記錄集

令和8年3月16日(月)～3月19日(木)



(新北市立三重高級商工職業學校関係者との記念撮影)

令和7年度 新北市高校生交流派遣事業 日程表

月日 (曜)	発着地・滞 在地	現地 時刻	交通機 関		その他
3/16 (月)	横浜駅集合	6:30		集合(横浜駅中央通路 京急線中央改札口前)	
	横浜駅発	6:45	京急線	羽田空港へ	
	羽田空港着	7:13		国際線第2ターミナルにて出国手続	
	発	9:20	飛行機	台北(松山)空港へ(NH851)	
	→→→ 所要時間 約4時間10分 時差 -1H →→→				機内食
	松山空港着	12:30		台湾入国手続き～税関検査	
	発	13:30	専用バス	バスにて新北市内へ	
	新北市	18:00	↓	新北市行政機関表敬訪問 終了後、ホテルへ(その後市内で夕食) ホテル着	夕食 ホテル
3/17 (火)	新北市	8:20 8:40	専用バス	ホテル出発 三重高級商工職業学校到着 挨拶、授業参加、発表、交流会等	朝食 (昼食)
		放課後	公共交 通機関	ホームステイ先へ ホームステイ	(夕食)
3/18 (水)	新北市内	8:00	公共交 通機関	ホスト生徒と高校へ登校 発表、授業参加、交流会等 台北街歩きツアー	(朝食) (昼食)
		放課後	公共交 通機関	ホスト生徒と下校、ホームステイ先へ ホームステイ	(夕食)
3/19 (木)	新北市内	8:30	公共交 通機関	ホスト生徒と高校へ登校	(朝食)
		10:30	専用バス	高校出発、台北(松山)空港へ	
	松山空港着	11:30	↓	空港到着後、出国手続き	
	発	13:30	飛行機	羽田空港へ出発(NH852)	
	→→→ 所要時間 約3時間 時差 +1H →→→				機内食
	羽田空港着	17:30		空港到着後、入国手続き～税関検査	
	発	19:30	京急線	横浜駅へ	
	横浜駅着	20:00		到着後、ミーティング、解散	

新北市高校生派遣事業参加報告

県立高等学校 2年

今回、私は神奈川県代表として、新北市高校生交流派遣事業に参加しました。台湾の新北市を訪れ、現地の高校生やホストファミリーとの交流を通じて、現地の食文化や三重高級商工職業学校の取り組みなど、たくさんを学びました。この報告書では、私が体験したことや学んだことを具体的にまとめ、感想を述べたいと思います。

3月16日

早朝、横浜駅に集合し、羽田空港から台北の松山空港へ出発しました。飛行機は約3時間で到着し、専用バスで新北市行政機関へ向かいました。向かっている途中、窓の外からは見慣れない景色が飛び込んできました。見慣れない言語、たくさんのバイク、まだ日本でいうと肌寒い季節のはずなのに、強いぐらいに眩しく温かい日差し。台湾に着いたことを強く実感した瞬間でした。新北市行政機関に着き、今回の交流で訪問する三重高級商工職業学校についての紹介を受けました。紹介を受け終わった後、ホテルに向かいチェックインを済ませました。夕飯までの時間で新北市街の散策をしました。どこを歩いても、周りでは中国語が飛び交っており、初めての海外に胸を踊らせた。夕飯は、ホテルの隣に建設されていたしゃぶしゃぶ屋で済ませました。散策のときに見かける飲食店は鍋料理を提供している店が多く、日本との文化の違いを感じました。

17日

朝、ホテルで朝食を取り、三重高級商工職業学校を訪問しました。学校では、校長先生や教職員の方々からの挨拶を受け、応用英語科の生徒に校内を案内してもらいました。校内見学が終わった後、DIYプログラムでバッグにイラストをアイロンプリントする体験をしました。私の通う農業高校では普段できない体験で、とても楽しかったです。昼食をとった後はベーキング教室でスコーンと型抜きクッキーの製造をしました。私が普段学校で学んでいる内容と似ており、自分の実力を発揮でき自信ができました。学校の授業が終わった後、ホストファミリーと挨拶をして夕飯を食べに行きました。いくつかの種類の料理が大皿で出てきて、それを家族で分け合って食べました。その後、夜市に出かけ屋台の食べ物をたくさん食べました。

18日

この日は、私たち教育特使と、現地校の生徒のみなさんによるプレゼンテーションがありました。私は、農業を小さい子どもたちにとって身近なものにしていくための取組について、発表しました。すべて英語による発表であり、かなり大勢の生徒のみなさんの前での発表だったので、準備の段階からとても苦勞し、当日もとても緊張はしましたが、発表後の質疑応答の時間も含め、充実した時間となりました。一方、現地

校の生徒のみなさんのプレゼンテーションには、学校紹介のようなものも含まれ、三重高級商工職業学校は敷地の面積が広く、様々な設備が整っていて、規模の違いを感じました。プレゼンテーションの後、コーヒー教室でコーヒー作りを体験しました。初めての体験で緊張しましたが、美味しくなる入れ方を学び、とても貴重な体験ができました。放課後には、ホストスチューデントたちと一緒に淡水という台北市内の場所へ行きました。とてもきれいな淡水の風景を見て台湾文化の美しさに感動したり、現地の食文化にたくさん触れたりすることができました。

19日

ホストファミリーと朝食を取り、この充実した時間が今日で終わってしまうことをとても寂しく思いました。学校での送別会では、現地の生徒のみなさんとの別れを惜しみつつ、最後の交流の時間を大切に過ごしました。その後、台北の松山空港から羽田空港へ出発し、横浜駅で解散しました。

私はこの研修旅行を通じ、異文化理解が深まり、新しい友人を多く作ることができました。また、台湾の教育についても学び、日本とは異なる文化における学校生活や日常生活について、実際に体験して知ることができました。学校教育以外にも、多くの部分で文化の違いを実感することができましたが、特に食文化の違いについては、刺激を受けるものも多く、今後の私の日本での研究に活かすことができれば、と思います。

この派遣期間を通して得た経験は、私にとって非常に有意義なものとなりました。今後もこの経験を活かし、多くの人に異文化交流で体験したことやその大切さを発信したり、自分の研究に活かすことで自らの将来へと繋げていきたいです。

令和7年度新北市高校生交流派遣事業報告書

県立高等学校 2年

私がこの交流派遣事業のことを知ったきっかけは、担任の先生に応募を勧められたことでした。当初の私は、面接のときに、「私は人前で喋ることがとても苦手です」と言っていたぐらいだったので、自分が教育特使になることができるとはあまり思っていませんでした。なので、教育特使に選ばれたと知ったときは少し驚き、同時に焦りを感じました。

それから出発までは、焦りと苦悩の日々でした。今年2月に、他の教育特使のみなさんと研究発表内容の事前確認をする場面がありました。そのときの私以外の特使のみなさんの内容がとても素晴らしく、焦りが大きくなりました。それからの数週間は、毎日、台湾での発表のことを思い出しては、悩んでいました。そうしている間にも出発の日は刻一刻と近づき、最終的に発表のためのスライドが完成したのは、出発数日前のことでした。台湾の生徒のみなさんに、フェアトレードというテーマをどうわかりやすく英語で伝えるかに苦心しながら、発表の原稿を何度も何度も読み、完成させました。

そしていよいよ、出発の日がやってきました。出発日の日本は少し肌寒いくらいでしたが、台湾に着いて肌で感じた現地の気温は、事前に聞いて想像していたよりもさらに蒸し暑く、修学旅行で行った沖縄を思い出させるものでした。

初日の教育庁への表敬訪問では、日本の生徒代表として、挨拶の言葉を読む機会がありました。参加者のみなさんが日本語で挨拶をしてくれたことで緊張がほぐれ、実際に挨拶を終えると、みなさんが温かく迎え入れてくれたこともあり、安心することができました。また、現地の生徒のみなさんに私の英語の発音をほめていただけたり、現地校の先生方からたくさん質問したりしていただけたことで、この後の研究発表への不安も、少し和らいだ気がしました。

二日目には、三重高級商工職業学校を訪問し、現地のみなさんが歓迎会を開いてくれました。そこでは、ホストスチューデントともはじめて話をする機会がありました。私は幼いころに海外で英語に触れて以来、英語は得意としていましたが、実際に英語でコミュニケーションをとることからは離れていたため、以前のように話せるのかという不安がありました。ですが、実際に話してみると意外とすらすらと言葉が出てきて、文法は恐らく完璧ではないものの、伝えたいことを英語で言うことができるということが、ただただ嬉しかったです。台湾の生徒のみなさんは、全員が英語が得意だというわけではなさそうでした。それでも、英語を積極的に学ぼうとしている姿勢がとても感じられ、日本人として見習う部分があるなと感じました。歓迎会では、現地の先生ともお話をする機会がありました。その先生がとても英語を流暢に話すので、英語の先生なのか尋ねてみると、社会科の先生だそうで、特段英語を専攻して学んだり、外国に住んでいたりしたわけでもないそうでした。その先生曰く、台湾の生徒のみなさんは、日本の英語学習者の多くが陥りがちな「日本に住んでいる限り、日本語しかできなくてよい」というような考えではなく、積極的に外国語の学習に取り組ん

でいるということでした。その話からも、日本と台湾の違いを感じることができました。

私のホストスチューデントとは、彼が日本のアニメが好きで、日本語を少し学んでいたということもあり、日本語と英語を交えてコミュニケーションを取りました。どうしても意思の疎通が難しいときには翻訳機を使いましたが、意思疎通のためにさまざまな試行錯誤をすることで、言葉が異なる人とコミュニケーションをとる能力が身についたと思います。ホストスチューデントである彼は、私にいろいろと気遣ってくれ、将来日本に進学をするつもりであることなど、色々な話をすることができました。

三日目は、いよいよ研究発表がありました。発表前の私は緊張しながら自分の発表の準備をしたり、原稿をぎりぎりまで読んだりしながら出番を待っていました。私の番になり、ステージに立ってみると、緊張してざわざわしていた自分の頭の中は一気に静まり返り、落ち着いて、聞き手に伝わりやすい発表となるよう気を付けながら、発表を行うことができました。また、発表後の質疑応答の時間には、多くの生徒のみなさんが質問をしたり、逆に私の質問に答えてくれて、嬉しかったです。そして私は、達成感を感じながらついに発表を終えることができました。

仲間と教えあい、先生方にご迷惑をおかけしながらも作り切ったこの発表が、私の発表への苦手意識を大きく減らす経験になりました。人前で話すことへの苦手意識を乗り越えられたことや、多くの人と関わる中で得た経験は、今後の自分にとって大きな財産になると感じています。

新北市高校生交流派遣事業報告書

県立高等学校 2年

<3月16日>

これからどんな経験ができるのか、どんな人たちと出会えるのか、少しの不安と大きな期待を胸に、羽田空港から飛行機で台湾へ向かいました。

新北市行政機関表敬訪問では、少し堅い雰囲気緊張しましたが、お互いのスピーチや写真撮影などで和やかな雰囲気になり、翌日からの交流が更に楽しみになりました。また、三重高級商工職業学校の生徒のみなさんが日本語で挨拶してくれたことがとても嬉しかったです。また次の日に、と挨拶を交わしてホテルに向かいました。

夕食までの時間は、新北市街を散策しましたが、ドラマで見るような昔ながらの街並みがとても美しかったことを覚えています。夕食はホテルの隣のお店でしゃぶしゃぶを食べ、教育特使同士の交流を深めました。

<3月17日>

朝食をホテルで済ませた後、バスで三重高級商工職業学校に向かいました。私たちが着いたころにはすでに玄関前に多くの生徒のみなさんが並んでいて、温かく迎えてくれました。歓迎会では、挨拶やお土産の交換、歓迎パフォーマンスとしてお互いに歌を披露しました。私たちは、この日のために一生懸命に準備をしてきた日本の有名なアニメーションの歌を披露しました。その後、滞在期間中を一緒に行動してくれるホストスチューデントのみなさんと交流をしました。

歓迎会の後は、ホストスチューデントのみなさんが学校案内をしてくれました。私が特に驚いたのは、学校の敷地の広さであり、様々な学科があるにもかかわらず、学科ごとに教室棟が分かれているなど、私が通う日本の学校とのスケールの違いを感じました。

その後は、ホストスチューデントのみなさんとともに、体験授業に参加しました。まず参加したDIY教室では、オリジナルのハンドバッグを作りました。好きな色のバッグとイラストを選び、専用の機械で熱着しました。現地の生徒のみなさんといろいろと相談しながらイラストや位置を決め、とてもかわいいバッグを作ることができました。

次に参加したベーキング教室では、スコーン作りを体験しました。材料の計量から焼き上がったスコーンにジャムを塗るところまで、ホストスチューデントのみなさんも含め、全員で協力しながら作りました。自分たちで作ったスコーンを、ホストスチューデントのみなさんと一緒に食べる時間は、とても充実したものとなりました。

放課後は、それぞれのホームステイ先へと向かいました。その日の夜は、ホストファミリーの自宅近くのレストランで夕食を食べながら、たくさん会話をすることができました。学校のことや家族のことについて、よく話してくれました。私も、ときには翻訳機に頼る場面も出てしまいましたが、日本で学んでいることや趣味について、一生懸命伝えることができました。夕食後も、ペットショップや公園、図書館など

色々なところに連れて行ってもらうなど、交流を深めました。私がお土産として持参したカステラとお茶を渡すと、とても喜んでくれたことも印象的でした。台湾の文化を実際の家庭で体験するととても貴重な機会となりました。

< 3月18日 >

この日は、それぞれが学校で行っている研究について、英語での発表を行いました。私は、「米粉の魅力を伝えるための、米粉100%のパンの開発について」を発表しました。英語が苦手なことや大勢の聴衆に向かっての発表だったこともあり、準備の段階からとても苦勞し、実際の発表の際も緊張しましたが、質疑応答の時間も含め、上手く話すことができたのではないかと思います。現地の生徒のみなさんによる発表もあり、学校や学科の紹介、自動車整備とAIの関係について発表してくれました。私以外の教育特使のみなさんの発表も、どれも興味深く、面白かったです。どの発表も英語だったので、全てを理解できたわけではありませんが、様々な考え方やアイデアを知ることができ、今後の私自身の研究に向けて刺激になりました。

その後は再び、体験授業に参加しました。コーヒー教室という授業では、自分たちでコーヒーを淹れました。豆を粉々にして押し固め、専用の機械にセットして水で抽出し、お湯を入れて飲みました。コーヒーを淹れるのは初めてだったので上手くできるか不安でしたが、自分で淹れたコーヒーはとても美味しかったです。水で抽出するときにかかる時間が20～23秒に近いほど、香りや味が段違いに良いそうです。

放課後は、淡水という場所を、ホストスチューデントのみなさんと訪れました。海岸沿いは海風が心地よく、全員で記念写真を撮るなど交流を深めました。この日は、ホストファミリーも含めて夜市にも行く機会がありました。夜市では、狭い道路に屋台が所狭しと並んでおり、その光景もまた、台湾文化の象徴として心に残っています。

< 3月19日 >

訪問最終日のこの日は、お別れ会を行いました。それぞれ交流の感想を伝え合ったり、私たちが準備した日本についてのクイズをしたりして、最後の時間を過ごしました。3日間お世話になった方々とお別れをして、大きな達成感と一生残る思い出を抱えて、飛行機に乗り、帰国しました。

私は今回の派遣事業で多くのことを学び、感じることができました。初めて経験することばかりで、日々とても新鮮な気持ちで過ごしていました。はじめは言葉が上手く伝えられず中々話せませんでしたが、身振り手振りや簡単な英語でコミュニケーションを取る中で、少しずつ色々な人と色々な話ができるようになりました。4日間はあるという間でしたが、とても貴重な経験になりました。

この交流では、ホームステイなどを通じて台湾の文化を自分の目で見て学ぶことができ、学校訪問では発表などを通じて様々な考え方に触れ、多くの人と交流することができました。これらの経験は私の知識や視野を広げ、大きく成長させてくれました。また、この貴重な経験を自分の中だけでとどめるのではなく、多くの人に伝え、異文化理解やコミュニケーションの大切さを共有していき、これからの日常生活で活かしていこうと思います。

積極的な挑戦の意義

県立高等学校 1年

2026年3月16日、台湾・松山空港に降り立った私の心は期待と不安で揺れていました。

神奈川県教育特使として台湾に行くことになったのは、私の尽きない好奇心がきっかけでした。教育特使として台湾へ行くことは、学校のクラブ活動で行っている水中ロボットの研究に国際的な見方を加えるとともに、自分自身の成長にとってもよい機会だと考えました。

私は神奈川県教育特使として、令和7年度新北市高校生交流派遣事業に参加しました。台湾での経験と、そこから学んだことをまとめ、報告を行います。

3月16日、羽田空港を出発し、台湾・松山空港までは4時間のフライトでした。羽田空港では初めての飛行機に心を躍らせていましたが、松山空港に着いた私の心は期待と不安でいっぱいでした。

今回の台湾への派遣が私にとって初めての海外でした。初めて飛行機に乗って、初めて日本を出た私の頭の中は、「言葉が通じるかな」とか、「文化の違いを理解できるかな」など、ネガティブな気持ちが渦を巻いていました。一方で、不安だった文化の違いが楽しみだったり、現地の高校生と交流ができたりすることに期待を膨らませていました。

空港からバスで新北市の行政機関に向かい、表敬訪問を行いました。同席した現地高校の生徒のみなさんや先生方が話す言葉を理解することはとても難しかったですが、日本語でもあいさつをしていただき、緊張がほぐれていきました。ホテルに着いた後には台湾の街を散策し、日本との雰囲気の違いを肌で感じました。

2日目以降は新北市立三重高級商工職業学校を訪問し、生徒との交流を行いました。バスで学校に到着した時にはたくさんの生徒のみなさんが私たちを笑顔で迎えてくれました。

歓迎会では、3日間よろしくお願いします、という気持ちを込めて日本の有名なアニメの主題歌である「風になる」を歌いました。現地の生徒の一人が「風になる」の中国語バージョンを知っていて、後の交流の時間に歌ってくれたのが嬉しかったです。ホームステイするクラスメートには元気な挨拶で迎えてもらい、すぐに打ち解けることができました。

歓迎会の後は授業の見学や体験、ホームステイと様々な体験をしましたが、彼はつきっきりで私を支えてくれました。

3日目には、私が学校で行っている活動の発表を行いました。私は「水中ロボットの開発と運用」というテーマで発表をしました。水中ロボットという言葉は初めて聞く生徒がほとんどという状況でしたが、自分の研究を簡潔にまとめ、英語で発表することができました。水中ロボットの開発では昨年の活動報告や今年度の目標、運用では水中ロボットの有効活用や将来性について話しました。水産を学んでいない現地の

生徒のみなさんには少し難しい内容になってしまったかもしれませんが、興味を持ち、前のめりに聞いてもらったことは、とても嬉しかったです。

その日の午後には、全員で淡水という場所を訪問しました。訪問初日に西門街を歩いた時にも感じましたが、日本よりも活気があるように感じ、どこか人々が明るい街で、生活していて楽しいだろうなと思いました。

最終日には学校でお別れ会を開いていただき、最後のイベントとして、日本と台湾の違いをテーマにしたクイズ大会を私たちが主催で行いました。出発前から力を入れて準備してきた甲斐あって、参加した生徒のみなさん、先生方に楽しんでいただくことができました。お別れの挨拶をしてバスに乗り込み、空港に向かいました。私たちはお互いの姿が見えなくなるまで手を振り、別れを惜しみました。

台湾での4日間で学んだ一番のことは、積極的に挑戦することです。普段は引っ込み思案で消極的な私は、人前に立つことはもちろん、人と話すことさえ得意ではありません。しかし、今回、初対面の現地の生徒のみなさんと積極的にコミュニケーションを取り、会話を楽しむことができました。今回の経験は、私のコミュニケーションスキルを大きく向上させるきっかけとなり、私自身の考え方にも大きな影響を与えました。この経験を通して、私は言葉や文化が違っていても、自分から行動することで相手とつながることができることを学びました。最初は不安でいっぱいでしたが、勇気を出して一歩踏み出したことで、多くの学びと大切な思い出を得ることができました。今後は、この貴重な経験を学校生活や将来の進路に活かし、より積極的に物事へ挑戦していきたいと考えています。

新北市高校生交流派遣事業参加報告

県立高等学校 2年

今回、私は神奈川県代表として、新北市高校生交流派遣事業に参加しました。台湾の新北市を訪れ、現地の高校生との交流などを通して異文化を持つ人々との交流の大切さや、文化の違いを学びました。この報告書では、私が体験したことや学んだことの感想を具体的に述べたいと思います。

3月16日：私たちは羽田空港から台北松山空港へ向かいました。空港へ着くと中国語の会話が聞こえたり、漢字の看板を目にしたりして、本当に台湾に来たのだということを実感しました。空港を出ると現地のガイドさんと一緒に専用バスを利用して、台北の町並みを楽しみました。台湾の気候や花、言葉やスポーツの話を聞き、日本との違いを感じました。葉初めに、新北市行政機関へ表敬訪問をしました。そこで挨拶を交わし、記念品の交換をしました。私達は小田原風鈴をプレゼントし、きれいな音を楽しんでもらうことができ嬉しく思いました。その後、ホテル周辺を散策しました。台湾の街には、日本と共通する店や商品も多くあり驚きました。ホテルへ戻ると、夕食にしゃぶしゃぶをいただきました。しゃぶしゃぶは日本にもある食べ物ですが、日本との味の違いを楽しみながら美味しくいただきました。

3月17日：ホテルで朝食をとった後、三重高級商工職業学校を訪問しました。学校へ着くと先生方や生徒の皆さんが温かい歓迎会を開いてくれました。歓迎会では台湾の歌を披露してくださり、とても素敵な歌で感動しました。その後、クラスメイトの人たちが学校内を案内してくれました。自然に囲まれたとても広い学校で、数多くの食べ物が売られていたり、専門的な教室が多くあったりして、圧倒されました。その後、授業でシール接着の体験をしたり、スコーンの調理実習を行ったりしました。調理実習では、現地校の生徒のみなさんとも協力しつつ、おいしく作ることができたので、達成感を感じました。2つの授業を受け、台湾の教育方法や授業について知ることができました。放課後はクラスメイトと学校近くのショッピングモールへ行き、台湾でおすすめのお菓子などを教えてもらったり、色々な会話をしたりと、仲を深めることができました。ホームステイ先へ行くと、家族のみなさんが温かく歓迎してくれました。ホストファミリーと夜市へ行き夕食を食べた後、近くの神社に案内してくれました。日本の神社との文化の違いを知ることができました。

3月18日：ホストファミリーと朝食をとり、学校へ向かいました。午前中は、研究発表を行いました。自分の研究を英語で発表することは初めてでとても緊張していました。発表では緊張して、うまく伝えられたか不安でしたが、「とてもよかった」と台湾の人から声をかけてもらい嬉しかったです。その後は、バスケットボールや、バレーボールなどのスポーツを通して、コミュニケーションを取ることができました。午後は淡水という場所へ行きました。現地の生徒のみなさんとの会話を楽しみながら、街を散策し、台湾の文

化を学びました。

3月19日：ホストファミリーと最後の食事をともにして、お別れの挨拶をしました。とても寂しく思いましたが、笑顔で見送ってくれ、心が温まりました。学校へ着くと送別会が行われました。記念写真の撮影をしたり、ポストカードの交換をしたりしました。別れを惜しみつつ、感謝の思いを伝えました。その後、台北の松山空港から羽田空港へ出発し横浜駅で解散をしました。

この交流派遣事業を通して、私は多くのことを知り、経験することができました。また、異文化交流を通して新しい交友関係ができました。台湾の生徒のみなさんと学校生活をともにしたことで、台湾における教育方法や学校生活、食文化などを学ぶことができました。特に夜市は、台湾独自の雰囲気や食文化を感じることができたため、私の研究の参考になりました。さらに、発表後の現地の生徒のみなさんとのやりとりにおいて教えてもらった台湾で流行しているメニューは、研究に取り入れたいと思えるものばかりでした。

台湾へ行く前は言語の壁に不安を感じていましたが、実際に話してみると不安に思うことなく一つもないくらい楽しいものでした。また、文化も価値観も違う人達と話すことが、自分の視野や考え方を広げ、可能性を広げてくれました。この経験を通して、いろいろな国に飛び込みたいという気持ちがより高まりました。また、この経験を活かして、私のカフェ研究をより活性化していくとともに、様々なことに挑戦していきたいと思います。

新北市高校生交流派遣事業参加報告

県立高等学校 2年

私は台湾を訪問し、日本との相違点をたくさん見つけることができた。だがそうした「違い」は、人と人とが仲良くなるのには、あまり重要でないものだと知った。

3月16日 台湾に着き、全く知らない土地で緊張していたが、空港にいた清掃員さんやお店の店員さんが優しく話かけてくれて、緊張が解けた。台湾の街に出た時にも、店員さんや街の人が話しかけてくれた。周りには助けてくれる大人がいることを感じてとても心強かった。

3月17日 初めて学校に登校した。一通り挨拶を終えたあと現地校の生徒のみなさんが私たちの周りに集まってきて、SNSを交換したり、写真を撮ったりした。初対面で言葉も通じない相手にたくさん話しかけてくれたことは、なかなか日本では見られない光景だと思った。ホームステイ先に帰ると、ホストファミリーが私を出迎えてくれた。私に気を使ってご飯を食べるときも日本語のアニメを流してくれた。とても嬉しかったが、みんながリラックスできているのか不安だった。

3月18日 二日目は授業で大勢の生徒のみなさんの前で発表をしたため、さらに交流の輪が広がった。その後、クラスメイトと街に出たときは、おすすめの食べ物やおすすめの場所などを、一つ一つ丁寧に教えてくれた。私たちが行きたい場所を伝えと、すぐに調べて連れて行ってくれた。現地校の生徒のみなさんとだけでなく、この派遣と一緒に参加した日本人の生徒同士も、仲良くなることができた。

3月19日 ホームステイ先の家族と、最後の挨拶をした。最初から最後までずっと面倒を見てくれて優しくあったけれど、同時に申し訳なさも感じていた。洗い物をこっそりキッチンに持って行って洗おうとしたが、途中でお父さんに見つかって洗ってもらうことになった。必死に手伝えることがないか探しても、私がやるからと断られてしまう。きっと普段から優しくて、温かい家族なのだろうと思った。学校に着くと、全員でこの滞在期間の感想を言い合った。それぞれの感想を聞いていると、私たちが温かく受け入れてくれた現地のみなさんも、私たちと同じように楽しんでもらえたことがわかり、嬉しくなった。泣きそうになったけれど、最後は笑顔で別れたいと思い、頑張ってこらえた。

この4日間を通して、台湾の方々が温かく、優しいことがよくわかった。日本との違い一番を感じたのは、「相手との関わり方」だ。日本では、初対面で会った人とはお互いのことを知るまで少し距離をあけてコミュニケーションをとる。だが、台湾の人々は初対面からたくさん話しかけて、「写真を取りましょう」と積極的に話しかけてくれる。また、発表のときも、私がこれまで経験してきた日本の生徒たちとは違った。日本では、発表者と聞き手との間にどこか距離を感じることもあるそれ対し、台湾では、発表者は「舞台の

主役」として迎えられる。（私の発表の際は、発表後に、舞台の主役である発表者と写真撮影の時間があつたほどだった！）台湾の人々は、私が荷物を持っているだけですぐに、「私が持つよ」と声をかけてくれる。おもてなしを大切にしている国だと感じた。

この派遣事業に参加する前は、海外は一般的に治安が悪く、怖い人も沢山いるのだと思い込んでいた。だが実際にこの派遣事業を体験した今、そうした海外の国々への偏見を捨てようと思った。自分の目で見た台湾は、自分が思っている以上に優しさに溢れた国だった。日本との文化の違いは多少あるが、それでもお互いの違いを認め合って仲良くなれることがわかった。この経験を生かして将来、人に優しく、違いを認め合うことのできる人になりたい。